

刊夕 日十二月六

常盤毎日新聞

定価 一冊五銭 一月五拾五銭 郵税五銭
原簿五冊 字詰一行五拾五銭
日曜祭日の翌日休刊
発行所 常盤毎日新聞社
印刷所 常盤毎日新聞社
電話 六三〇
印刷部 常盤毎日新聞社

紅い小鳩 (三)

最近の若い女性の問題

村岡花子

某名家の令嬢が家を出て喫茶店に働いてゐたといふ事件について考へても、それほどに思ひ切つた行爲を敢てするやうな性格に對して周囲の年長者は平生からもつと深い理解を持つてゐなかつたのが不思議である。それだけの意外な行動をする娘さんである以上、きつと平生から相當變つた點を持つてゐられたにちがひない。あんな事をやり出さない中に、指導の法を何とか考へて上げたかつたやうに思はれる。

さりとて、かうした性格の少女を唯嚴格一点張りの教育で指導出来るものではない。要するに、彼女は寂しかつたのではないだらうか。『自由』にあこがれ、生活に變化を望む若い心が思ひつきり翼を伸ばして、聲高らかに笑ひ、且つ、歌ひたかつたのではないだらうか。家庭の中で思ひつきり歌つたり、笑つたり出来なければ、勢ひ他にそれを求めるのは當然である。あきらめて、おとなしく納り切

れない性格、さういふ性格に生れつゝいた娘たちがある。さういふ性格の子供を持つた親は、須らく覺悟して、彼等のその性格の中にこつちから同化して行き、彼等の中に溶け込んで彼等の氣持に同情しつゝ、導く態度を執る必要があるのではないだらうか。

△
今の若い娘さんは結婚についてさまざま希望を持つ。昔の様に親の定めて呉れた相手に無條件で嫁がうといふ氣持は、どん／＼薄らいで行く。中には、わざと他の人とは異つた経路を取つて結婚しようとする人さへある。

△
女學校を出た、いはゆるインテリ型の婦人が、或る職人と進んで結婚をしたといふ事件なども、一面この間の消息を物語るものだと思ふ。職人と云ふものゝ位置をどうかう云ふのではないけれども、夫となつた人は妻よりも遙かに智的には劣つてゐたらしかつた。女學校の教育を受けた女性の生涯の伴侶としては、その教養學識に於て劣つてゐたのである。遂に妻はその低級さに堪へられなくなつて結婚を解消したといふのである。

△
聞いただけでは、餘りに

も馬鹿らしい事件に思はれるけれども、近代女性が在來の結婚方式にあきたらず因襲を打破しやうとしても、がいてゐる姿がまご／＼と感ぜられて、實際はむしろ痛ましく感じられるのである。

表面にあらはれた兒戲的行爲の陰にびそむ眞剣な

がきを見落す事は出来ない。今の若い人々は兎に角、在り來りの事に倦きてゐる何か新しい、變つた進路を求めてゐる。それは限りなく追求する心である。年長者の常識では掴み切れない彼等の飛躍する心に同情を與へたい。

看護婦急派

求めに應じ

平看護婦會

平町南町 電話三〇七番

上田醫院

平町南町
電話一九二番

市原醫院

平町・田町
電話一四四番

カメラ SM

招は緑新



花も散つて、自然は緑の世界と變りました。野に山にハイキングの好シメラズンです。MSカメラこそ貴方の樂しき一日を永遠に残すこととせう。

少年用 十二型 十二型 十二型
少用 十二型 十二型 十二型
用トスベ 十二型 十二型 十二型
型ニロフ 十二型 十二型 十二型

新型カメラ入り 荷入
カメラと材料各種

平驛前 やみつかカメラ部

頭痛で不快の方

何となく

二三回で不思議に快癒する

フタバの磁氣

平町中仲町(電一九三番)

耳鼻咽喉科専門

平田町(電話六九一番)

山内醫院

醫學士山内亨吉

病室完備 自炊便有

麒麟のビール

(キリンビール本社直送)

麒麟生ビール

容量比較

生ジョッキ	四合	入	金十五銭
キリン瓶詰	三合五勺	入	金五十銭

平會館

電 624

遊覽團體募集

一日歸ノ部
柳居津虚空藏尊(猪苗湖)東山白虎除廻り
出發 六月二十八日 午前三時
會費 往復自動車賃 貳圓也
日光 (笠間稻荷様廻り日光六時休憩)
出發 七月二日 午前一時
會費 往復自動車賃 貳圓五十錢

一泊ノ部
古峯様參詣(日光參拜一泊、東山市内名所遊覽)
出發 六月廿五日(午前四時)
會費 六圓也(但シ晝食二回宿泊料ヲ含ム)

三原山 東京市内名所遊覽
出發 七月十日(午前五時)
會費 拾貳圓(但宿泊料汽船料及一切含ム)
(各車共定員二十二名、定員未滿ノ節ハ勝手乍ラ延期スル事モアリマス)
其他御希望ノ各種團體ニモ應ジマス

尼子自動車商會 遊覽部

電話六四〇番

丹野齒科醫院

丹野淳夫
平驛前 電話三八五番

米を買はぬ 噂にヒント

圖々とい犯人

駐在所向ふに居を構ふ

既報豆腐屋に化けて千餘圓の窃盗を働きたる署に檢舉された平窪村大字中平窪字横枕の林藤悦(三)は平窪赤井小川方面に商賣に出かけた際、豫め顧客の家の模様を突き止めて置き不在を見計つては片ツ端から白米其他を窃取し廻つて居たものであつて一日に五軒も荒した事があるが實直な豆腐屋さんで

川路畫伯の 詩畫を頒布

畫壇の鬼才川路柳虹氏は美術評論家としては既に第一人者であるが詩人としても獨特の新天地を拓き其畫風は洋畫、南畫の兩風韻を渾一したる孤高の氣品を有し平福百穂氏と一脈相通する香りがあつて、來る二十五、六日頃小瀧鏡泉主の招きに依り大日本藝術普及會の理事旭谷氏を帶同來遊する、管であるがこの機會に畫伯の創始なる詩畫の頒布會が催されるが其清規は半切一口貳拾圓といふ時價の半額にも充たぬ廉價である、未だ柳虹氏の畫風に接せざる方は旭谷理事の友人である平町十五丁目中村月城氏

方に實物見本があるから一覽せられたいと
江名町の
水道用地
所有者達が
買収に應ず
江名町仲ノ作田善之助、吉田源太郎、佐藤忠熊三氏所有の田地山林各六反歩は過般江名町水道用潰地として買収の交渉を受けたが是れに應じないのを町當局は所有者の承諾なく工事を起したので前記三名は町を相手に所有權侵害の訴へを平署に提起した處町當局は町會の決議により土地收容法を適用すると紛争を續けて

居たが縣の命を受けた小林平士木監督所長は本月上旬より調停に立ち前後四回に亘る交渉の者果前記三氏は町當局の買収を承諾する事になつた

接客検診

平署管内日割

既報平署は夏期に於ける接客業者の健康診断を本月十五日より管内各町村で一齊に執行して居るが明後日からの診断日割左の如くである
廿二日赤井 廿三日小名濱 高久 廿五日神谷 廿六日江名 七月一日澤渡 二日三坂 三日永戸 箕輪

愛謠會主催 三派合同

演能の大會

勿來町の愛謠會主催で觀世喜多、寶生三派合同の能大會を七月七日正午から平町第三小學校講堂で開くが當日は東部から觀世流能の大家遠藤、田所兩師が出演の豫定で出し物は小袖會我、羽衣、舞囃子、八島及び狂言の外仕舞數番があると

鐵の試掘

不許可となる

石城郡好間村大字中好間松島與七氏から提出の同村及び赤井村地内二百萬八千八百坪の鐵の試掘願は法定の制限面積を超過するとの理由で不許可となつた

明日のラジオ

廿一日
午後六、〇〇 子供の時間
童謡「熊の作つた乗合馬車」岸邊福雄
午後六、二五 講演「近東諸國に於ける日本商品の進出に就て」水野伊太郎
午後七、三〇 講演「歐米各國に於ける無線の發達に就て」東北帝大教授宇田新太郎
午後八、〇〇 義太夫 豊竹猿司
午後八、三〇 寄席中継「漫才」足にまかせて「秋山右樂」音曲「吹き寄せ」外三遊亭圓若
午後九、三〇 時報 ニュース 氣象通報 番組豫告

自營會寄附

三菱其他から

財團法人自營會へ廿日三菱より金五十圓、本縣より金七圓夫々釋放者保護助成金として寄贈された

盗み損なつて 餘罪發覺

岩手縣下閉郡釜石町宇大渡三一生れ住所不定無職戸田金三郎(三)は昨十九日午後十時頃湯本町宇吹矢の木賃宿若松幸藏方茶の間に忍び入り家財を物色中家人が發見取押へて平署に突き出したが平署で餘罪を取調べるに及んで去る十六日四倉町宇演端の某旅館から客の洋服及び現金三十圓を窃取した外四倉、湯本の兩小學校を荒らす等犯行數件を自白した

集金紛失

平署に届出

豊間村大字薄磯字北町志田安治郎さんは昨十九日午後一時頃高久村へ商用で出掛け集金五十六圓を紛失平署

今日も明日も南東の風曇り明日は天気次第に良くなる

明日の部

前六、三〇 實用文講座 服部爽香
前七、三〇 家庭講座 「言葉遣いと人格」安部磯雄
後六、〇五 和洋合奏 江東管絃樂團
後七、〇〇 家庭講座「生花と盛花」兒島文茂
後七、四〇 小學生の時間 國語「南洋のゴム」岩城國武
後八、一〇 教師の時間 「音樂鑑賞の指導について」小松耕輔

女子青年幹部會

平町女子青年幹部會は今日午後一時より平第二小學校作法室にて開かれた

守屋政務次官 本郡漁濱視察

め本月廿五日午後來郡、自動車で四倉、豊間、江名、仲ノ作、小名濱等の各漁濱を視察し同夜湯本町に一泊廿六日午前七時四十分同驛發列車で水戸市へ向ふ豫定である

湯本青年學校

湯本町青年學校は來月一日より同町尋卒高等小學校内に開校するが修業年限は本科四年、研究科二年である

シネマ週報

△世界館 コーレックシャン
グ、リカドコロラス主演
演「真夜中の處女」月形龍之介、小金井勝主演「仇討妻戀坂」江川宇禮雄主演「母と女」松竹ニユース 二〇九號 (二十錢)

明日の部

前六、三〇 實用文講座 服部爽香
前七、三〇 家庭講座 「言葉遣いと人格」安部磯雄
後六、〇五 和洋合奏 江東管絃樂團
後七、〇〇 家庭講座「生花と盛花」兒島文茂
後七、四〇 小學生の時間 國語「南洋のゴム」岩城國武
後八、一〇 教師の時間 「音樂鑑賞の指導について」小松耕輔

低學年競技

磐中、平商の低學年(一、二年)の對抗陸上競技は來る廿二日(土)午後二時より磐中で催される

農林省守屋政務次官の一行は本郡漁村の實情視察の爲

△平館 尾上菊太郎、高津愛子主演「お千代傘」阿部九州男主演「躍る鬼神」後編 記録映畫「元師東郷平八郎」(十五錢)
△平館 尾上菊太郎、高津愛子主演「お千代傘」阿部九州男主演「躍る鬼神」後編 記録映畫「元師東郷平八郎」(十五錢)
△平館 尾上菊太郎、高津愛子主演「お千代傘」阿部九州男主演「躍る鬼神」後編 記録映畫「元師東郷平八郎」(十五錢)

後六、〇〇 子供の時間
お話「平泉の史蹟」深見秋太郎
後六、二五 基礎英語講座 岡倉由三郎
後七、三〇 講演「最近に於ける本邦化學工業の發達」西田博太郎
後八、〇〇 常磐津恨葛露 濡衣常磐津兼太夫他
後八、二〇 熱田尚武祭川まつり實況
後八、五〇 尺八眞虛靈大久保交堂他
後九、〇〇 ラヂオドラマ「母の席」創作座
△回職を求めめる方
△書生 十六才 高卒
△荷揚夫 三十三才 尋卒
△鐵工 三十八才 尋三修
△料理人 二十三才 尋卒

美味! 芳醇! 宗正らひた

山崎合名會社
電話一〇番

藤沼醫院

平町・紺屋町
電話五〇七番



明治太平記

(作) 寺島征史
(畫) 野口

第五百十四回

思慕と望郷(七)

いつもの述懐だ、とおふくは、心に軽く受流した。「だから、わたしおふくしやんを愛しても、一向差支ありません」

「ちや、旦那様」

「なんですか？」

「それ程、愛して下さるなら、なぜ、わたしを公使館官舎へ住まはして下さいませんの？」

「公使館官舎は、窮屈であります。あなたと楽しく語り合ふ事なか〜出来ません」

「でも、本當に愛して下さいのなら、世間の思惑を考へたり、公使館の誰彼に遠慮なさる事ないと思ひますわ」

「……」

「旦那様は、わたしを、輕蔑してなさるわ」

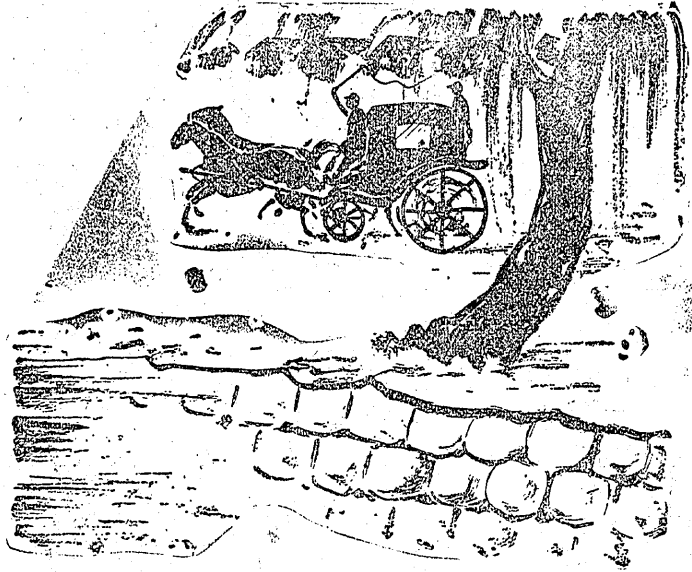
「少々手さびしくすねてやれ……とおふくは心にきめた。」

「とんでもない事です。大切な夜光珠は他人に見せず隠してをいて、一人楽しんでみします、それと同じ事です」

「さう、本當に、それ程思つて下さつて有難いわ」
「其の内、御殿山あたりへ別荘をつくりなす。あなたに女王様になつて、そこに住んでもらひませう」
お馬車は休まずに、トコトコと街々を進んで居る。

「え？」
パークスは、苦い顔をした。ウエルズの名を聞くだけでも不快だつたのだ。しかも、おふくの唇から、其の名がもれて出ると云ふことは、まけいに不快で然も不思議に嫉情さへ胸に覺えた。

「あの方、やはり公使館官舎にゐらつしやいますか？」
「あなたは……」
パークスは、不快を追拂はうとして、幾度か頭を振りながら
「あなたは、何故、あの方の事を、その様に、たづねますか？」



「なせつて事、ございませんけど……あの方と一度、踊つてみたいと思つてますの……」
おふくの良順の、残忍性が、此處でもあからさまに働きかけて来た。
「いけません」

「あの方、なせでございません？」
「あの男、なかくの色魔ですぞ、毒牙を磨いて居りますぞ、めつたに、あの男と踊つてはなりません」
パークスは、口を極めてウエルズを悪しざまにいつた。

「でも、そんな事恐れませんわ。ですから、あの方のゐらつしやる所を、教へて下さいませ」
「……」
パークスは、かたくなに唇を結んでしまつた。お馬車はふと、止つた。

店主が店員を連れて行く	正シイ食堂
正シイ喫茶	正シイ酒場
平・田町	平・田町
ラレストサロン	電話二五三番

木村醫院
平町六丁目橋際
電話三〇九番

米國製劑皮膚病良藥
レメドール
子宮あたゝめぐすり
宮温湯
丹波博士創製セキドメ
たんばあめ
靈藥ムテキ

平町古銀治町〇一
阿康藥舗
縣社ノ下 電話四四四番

四男四郎儀病氣の處藥石無効十八日
午前七時死去致候間謹告仕候
追て葬儀は来る二十一日午後二時自宅出棺照
岸寺に於て佛式に依り相替み可申候
昭和十年六月十九日
平町新川町
諸 橋 國 松
外 親 戚 一 同

吸入用酸素純度99%

度量衡
モノサシ
マス
ハカリ
器量計
體溫計
寒暖計

秤ノ取緒・垂糸・修繕致シマス
關内藥局
電話四〇番

寫真材料一式販賣致シマス

夜 間 診 療

胃腸病科
皮膚科
性病科
花柳病科

門 專
院科性病胃腸村松
(平町南町一七〇番)

魚清の謝恩デー

開店七週紀念として来る廿三日(廿三夜様)晚御來店の御客様にゴム風船一人一個づつ差上りますから何卒御立寄り下さい
平二警察署通り

魚清食堂部
電話六三三番
魚清氷卸部
電話四六七番